

佳作

私の夏休みの挑戦

岩手県盛岡市立城東中学校

1年 佐々木 皐

雲のまわりを夕日が金色でふちどって、桃色とあい色のグラデーションが遠くまで続いている。

「ここに来て本当に良かった」私はしみじみそう思った。

夏休み、私は大きなチャレンジをした。

「槍ヶ岳に登ろう。」

ある日そう母に言われた。正直あまり乗り気ではなかった。なぜなら、どのような山かも分からないし、わざわざ疲れに行きたくはない。しかし、1年前に槍ヶ岳に登った祖父母の話の聞いたり、テレビで槍ヶ岳の番組を見て自分も行きたいという気持ちに変わった。

槍ヶ岳は長野県の山で、標高 3180 メートル、日本で 5 番目の高さだ。岩手の山は祖父母と何度か登っていたけれど、3000 メートルと標高が高い山に登るのは初めてで不安な一方、ドキドキワクワクしている自分もいた。

そして本番、新幹線や電車、バスを乗り継ぎ上高地についた。岩手では見たことのない景色が広がっていておどろいた。

自分に見えている一番高い山を指さし、

「あれが槍ヶ岳？」

と聞くと、

「ちがうよ槍ヶ岳はもっと奥にあるよ。」

と言われ不安な気持ちがますます大きくなった。歩き始めると川が見え、エメラルドグリーンに透き通っていた。さわるとひんやりと冷たくて気持ち良かった。1日目、2日目はきれいな景色と冷たい水に力をもらいながら一步一步前進した。

3日目、頂上の小屋がやっと見えてきた。すると右足の中指がズキズキと痛んだ。よく見ると爪がくいこんで少し血が出ていた。

母にばんそうこうをもらい、2枚3枚とはりかさね、テーピングもぐるぐる巻いた。痛みは少しやわらぎ、再び山頂を目指し歩き始めた。

見えているはずの小屋が歩いて歩いて中々たどりつかず、何度もくじけそうになった。しかし、周りの人がはげましてくれたおかげでなんとか歩くことができた。

ついに小屋に到着する。着いたときの達成感はいまだに忘れられない。食事

をとって失った体力を補い、最終目標の槍のてっぺんに挑む。小屋から見た時、すぐに登れそう、そう思ったが甘く見ていた。近くに行くと先に登っている人が今にも落ちそうな体勢でとてもこわかった。私も今からそこに登ると思うと、身ぶるいがとまらなかった。

ヘルメットをつけ、登り始める。雲で下が見えず浮いているような気持ちだった。落ちたら死ぬんだ。とにかく無我夢中で登った。何度かあるはしごも慎重に登った。もしも足をふみはずしたら……と思うとこわくて仕方がなかった。なみだがあふれそうになるのをぐっとこらえた。上にいる人に

「もうすぐ山頂だよ。」

と声をかけられ、ホッと安心した。最後まで気を抜かずに登った。

そこには、絶景が待っていた。空の中にいる感覚で今までにない感情がこみ上げてきた。金色の光が差し、雲がゆっくりと流れていた。こんなに美しい景色が存在するのだなと思った。

もう日が暮れて暗くなるので下りることにした。足元に十分気をつけて四つんばいで下りていく。登りとちがって進むコースが見えにくいので、時々下を確認しながら下りる。小屋にもどろうとすると一緒に来た登山の会の方たちが待っていた。

「よく頑張ったね。」

とほめられた。下りてくる様子を見守っていてくれたのだ。うれしくてハイタッチをした。

私は夏休み大きなチャレンジをしたんだ。心からそう思った。

「槍ヶ岳に登って本当に良かった。」